

特別支援教育の視点を取り入れた新しい授業づくり

改めて、昨年度の授業づくり基礎・基本の続きを考えていきたいと思えます。

表題に「特別支援教育の視点」と入れました。何か新しい視点での教育方法なのかと言うと、そういう意味ではありません。日頃、先生方が授業を進める中で、意識して取り入れている中に、普通にこの視点が含まれています。一時期よく使われた言葉に「ユニバーサルデザイン」を意識した授業づくりに等しいところがあると言えます。和歌山県教育委員会が出した冊子に「どの子ども「わかる・できる」授業づくりのアイデア～特別支援教育の視点を取り入れた新しい授業実践集～」と言う冊子があります。(職員室フォルダー→中山フォルダーに全文入れておきます。)この冊子にいくつか授業づくりのヒントが紹介されていますので、一部をここでお知らせしたいと思えます。知っての通り、現代の普通学級には発達障害を抱えた生徒が何人も在籍しているのが実情です。そういった子供に対して、ちょっとした工夫と手間を掛けてあげるだけで、その子にとっては安心して学習に臨める環境になると言うことです。ご存じかと思えますが、よく言われることは黒板周囲の掲示物は必要最小限にすることで、子供の集中力が違ってくるということもよく知られていることだと思えます。

今回、特に取り上げて紹介するのは「学習の見通し」を持たせるということです。学習の見通しを持たせる場面は2つあります。1つは、単元の見通しを持たせることです。以前にも紹介しましたが、授業を計画すると言うことは、単元を貫いて一つのゴールを目指す計画を立てていくことが重要です。そのように、教師が単元計画を立て、その計画の見通しを子供に知らせることが、「単元の見通し」を持たせることになります。冊子の例を見てみると、小学校の国語ではありますが、このように1次～7次の学習予定を示すことで、次に何をするのか、最終的に何ができれば良いのかをわかることができます。このような学習計画を単元の初めに示すことと、常に今どの場面を学習しているのかを抑えていくことが、子供の学習の見通しを持たせることができ、集中した学習につなげていくことができます。よく、小学校ではこのような学習計画を教室に掲示しているのを見かけますが、中学校では難しいので、ワークシートや板書に工夫を凝らすことが必要でしょう。

ありの行列学習計画

- 一 新出漢字の学習
全文を読んで、かんそうを書く。
- 二 段落から「問い」の文を見つけ
その「答え」を見つけたる学習の仕方が分かる。
- 三 第一、第三段落から
ウィルソンがどんな方法でしらべ、分かったことを読み取る。
- 四 第四、第五段落から
二つ目のまげんやかんさつのけつが読み取る。
- 五 第六、第七、第八段落から
研究をして分かったことを読み取る。
- 六 第九、第十段落から
ありの行列ができるわけを読み取る。
- 七 段落ごとの中心になる部分を見つけ、ノートにまとめる。

2つ目は、「本時の見通し」を持たせることです。この点については、次回紹介していきたいと思えます。

・・・ to be continued ・・・

参考文献：「どの子ども「わかる・できる」授業づくりのアイデア

～特別支援教育の視点を取り入れた新しい授業実践集～ 平成24.3 和歌山県教育委員会